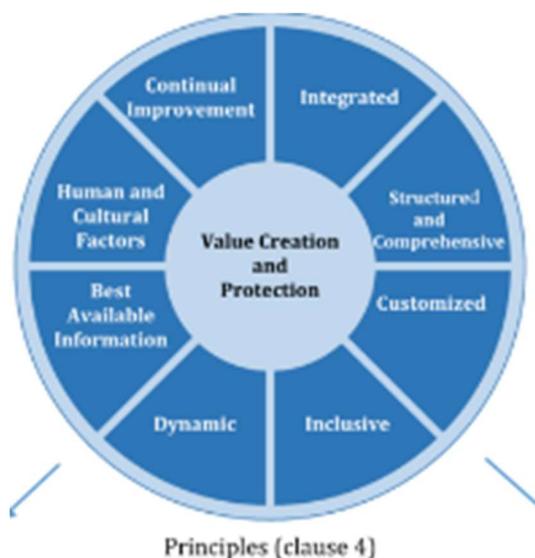


ISO31000

#### 箇条 4 原則

リスクマネジメントの意義は、価値の創出及び保護である。リスクマネジメントは、パフォーマンスを改善し、イノベーションを促進し、目的の達成を支援する。



有効かつ効率的なリスクマネジメント指針を図に示している。図はリスクマネジメントの価値、リスクマネジメントの意図と意義を説明したものである。原則はリスクのマネジメントを行うための土台であり組織のリスクマネジメントの枠組み

(箇条 5)及びプロセス(箇条 6)を確立する際には原則を検討することが望ましい。不確かさが組織の目的に与える影響を a)~h)の 8 原則によってマネジメントできる可能性が高くなる。

## 原則の図（再掲）



リスクマネジメントの要素は、図の上部 integrated から右回りに continual improvement まで、

a) 統合：リスクマネジメントは、組織の全ての活動に統合されている。

b) 体系化及び包括：リスクマネジメントの体系化されかつ包括的な取組み方は、

一貫性のある比較可能な結果を出すことに寄与する。

c) 組織への適合：リスクマネジメントの枠組み及びプロセスは、対象とする組織の、目的に関連する外部及び内部の状況に合わせられバランスがとれている。

d) 包含：ステークホルダの適切で時宜を得た参画は、彼らの知識、見解及び認識を考慮することを可能にする。これが、意識の向上、及び十分な情報に基づくリスクマネジメントにつながる。（inclusive:多様性を認め、すべての人が支え合いながらともに活動する）

e) 動的: 組織の外部及び内部の状況の変化に伴ってリスクが出現,変化又は消滅することがある。リスクマネジメントは、これらの変化及び事象を適切に,かつ時宜を得て予測し、発見し、認識し、それらの変化及び事象に対応する。

f) 利用可能な最善の情報: リスクマネジメントへのインプットは、過去及び現在の情報、並びに将来の予想に基づく。リスクマネジメントは、これらの情報及び予想に付随する制約及び不確かさを明確に考慮に入れる。情報は時宜を得ており、明確であり、かつ、関連するステークホルダが入手できることが望ましい。

g) 人的要因及び文化的要因: 人間の行動及び文化は、それぞれのレベル及び段階においてリスクマネジメントの全ての側面に大きな影響を与える。

h) 継続的改善: リスクマネジメントは、学習及び経験を通じて継続的に改善される。